

第19回 宇宙科学・探査小委員会 議事要旨

1. 日時：平成30年6月15日（金） 9：58－11：56

2. 場所：宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

松井座長、市川委員、小野田委員、倉本委員、竝木委員、藤井委員、
山崎委員

(2) 有識者

常田 国立天文台長

(3) 事務局（宇宙開発戦略推進事務局）

高田事務局長、行松審議官、須藤参事官、高倉参事官、山口参事官、
佐藤参事官

(4) 関係省庁等

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課 谷課長

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）

國中宇宙科学研究所長・理事

4. 議事要旨

(1) 宇宙科学・探査に関する課題に関する検討の進め方

宇宙科学・探査に関する課題（フロントローディングとプログラム化）の今後の検討の進め方について事務局から説明した後、それら課題に対するJAXAの考え方を聴取し、主にフロントローディングについて議論をおこなった。

フロントローディングは、プロジェクト開始（プロジェクト予算化）前に、ミッションを検討していく上で獲得しなければならないハイリスクなキー技術の確立に対して実施していくもので、基盤経費とは別予算で行うもの。

（フロントローディングで技術確立に失敗すれば、予算化はされない。）ということを経験間で確認し、議論のとりまとめは、座長に一任して、各委員に確認することとなった。

また、委員から、以下のような意見等があった。

（○：質問・意見等 ●：回答）

<JAXAからの説明について>

○ミッション創出・実行プロセスについて、本資料に示す改革内容についてJAXAの中で共有できているのか。

●法人統合後、法人内の意志疎通に時間を要したことは事実。だが、今はうまく回ってきており、施設・設備の共有も含めて、有機的なリンクが形になって表れてきている。

○ミッションの選定プロセスについて、理学／工学委員会で選定されなかったプロジェクト候補の提案は、その後どこかで活かされることはあるのか。

●理学／工学委員会で選定されなかった提案も後々何らかの形で生かして

いく。例えば、別プロジェクトでリファインしていくこともあり得る。

<フロントローディングに関する議論>

- フロントローディングの実施体制については、JAXAが資料2で示した体制を妥当としつつも、大学との連携においては、大学側がメリットを享受できる仕組みをよく検討する必要がある。

- フロントローディングも重要だが、いろいろな候補があるミッション探究フェーズからしっかり取り組むことも重要である。

- フロントローディングを行うことによりスケジュール的に従来の開発期間をできるだけ短くし、タイムリーな形で国際的な競争力を培えるようにしていくことも視野に入れていくべき。

以 上